



## 普段着の私



もの忘れ外来医長 兼 認知症疾患医療センター医長 藤田 純

アルコールは肝機能だけでなく、中枢神経の様々な機能を低下させると言われており、多量飲酒は禁物と言われていますが、その一方で少量飲酒に関しては認知症の防御因子となる可能性が示唆されています。中でもワインが良いと言われており、私もワイン好きがこうじて、ワインを自宅用に買ってみますが、どうも美味しくない。グラス？温度？デカンタージュ？おつまみ？ワインの値段？など色々考えてみましたが結論はです。餅は餅屋と言うことで、ワインバーのソムリエに尋ねてみると「飲むのが速すぎます。まずはそこから直してください」とのこと。抜栓後のワインにも飲み頃があるみたいです。くいしんぼうの私はつつい速く飲んでしまい、ワインが開く前に飲み終わっていたのです。飲み手に飲む速さまで強いてくるワイン。面倒くさいけどそれがいいところでもあります。来週は何か飲めるか楽しみです♪



リハビリ療法部 作業療法科 深澤 喜啓

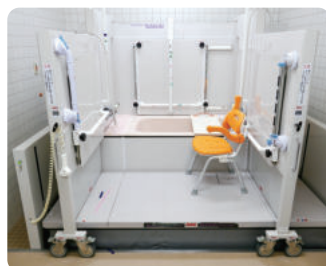
今年、神戸から地元である宍粟市に引っ越してきました。我が家の子どもは虫や魚を採るのが大好きなので、私が昔よく遊んでいた河原に行ってみました。ところが、その河原は大掛かりな工事で流れが変わっており、更に川が汚れて魚などが殆どいませんでした。がっかりしましたが、一応遊びにきたのでそのあたりで子どもを遊ばせていたところ、せっかくなのだからと思い、川の掃除をしてみました。数日後、また子どもと遊びに行った時に少し川の水がきれいになっていたの、気を良くした私はまた掃除をしました。そして、後日行ってみると、更に水がきれいになっており、魚も少しいるではありませんか！それから、地元の友達にも手伝ってもらい何度か掃除をすると、子どもが遊べるくらいになり魚も増えました。なんとなく始めたことでしたが、今では子どもより私が川に行くのを楽しみにしています。



## 部署紹介 リハビリ療法部 作業療法科

作業療法では、生活場面における問題点を評価し、様々な作業活動を通して機能回復に向けた訓練を行います。障害のある部分だけでなく健康な部分も最大限に活用して、からだ全体の動きを訓練します。作業活動を用いるのが特徴ですが、電気刺激装置やドライブシミュレータなどの機器を使用することもあります。また、記憶力や集中力が低下する、左側のものを見落とす、動作の手順が悪くなるなどの高次脳機能障害に対する訓練や、日常生活での工夫についてもアドバイスしています。退院後の生活を考えながら、身の回り動作や家事、外出などの訓練も実際に行っています。作業療法科には現在 23 名のスタッフがいます。皆様によりよいサービスを提供できるようスタッフ一同精進してまいります。

皆さん一緒にがんばりましょう！



“おんせん”と“うまいもん”でおもてなし

特別会席プラン

平日1泊2食 1室2名様利用  
大人お一人様(60歳以上の方)

13,750円(税込)

露天風呂で好評いただいております

その他、いろいろなプランがございます。  
詳しくはHPをご覧ください！



浜坂温泉保養荘

☎(0796)82-3645

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775  
http://www.hamasaka-ni.com/

(写真は特別会席の一例です)



リハビリテーション西播磨病院だより

# ひかりの都

2018年  
9月発行



## 神経難病リハビリテーションセンターを開設しました

管理局長 田村 賢一



リハビリテーション西播磨病院は、開設以来13回目の秋を迎えました。「地域とともに歩み成長する」という運営理念のもと、西播磨・中播磨圏域の急性期病院等との密な医療連携により脳卒中、神経難病、運動器疾患、脊髄損傷などの患者さんに高度専門的なリハビリ医療を提供し、早期家庭復帰を目指しております。

9月1日には、神経難病に特化した支援拠点としては県内初となる「神経難病リハビリテーションセンター」を開設しました。自宅や地域での療養生活を豊かにするという視点に立ち、当院がこれまで実践してきた先進的なリハビリテーション治療と研究に加え、相談、情報提供、研修・養成、患者会への支援等、パーキンソン病を中心とする神経難病患者さんやご家族の方々の困りごとが緩和できるサービスの提供に努めてまいります。まだ産声を上げたばかりですが、患者交流の場としてfacebookを立ち上げ、視線入力による意思伝達装置や、すくみ足を改善する身体装着型移動支援機器などの展示、開設記念セミナーの開催等に取り組んでいます。今後は、定期的な相談日を設け、当センターが保健所やハローワークなどの関係機関と患者さんのつなぎ役となって就労を支援するなど、医療から福祉、仕事に至るまで相談の幅を広げるとともに、行く行くは、多職種による集学的な介入の知見を生かし、在宅療養をしながら実施できるリハビリテーション方法や療養支援ツールの開発を目指します。

9月15日には「認知症の人にできること」というテーマで県民公開講座を開催し、誰もが罹る身近な病気となった「認知症」の予防と治療、ケアの基本について、200人近い地域の皆様にご紹介することができました。認知機能の特性を把握できる「脳活バランサー」に興じる参加者の方も多く、タブレットの周りには黒山の人だかりができていました。

10月20日には、恒例の秋祭り「ふれあいリハフェスタ」を開催します。2年続けて天候に恵まれなかったリハフェスタ、今年こそは爽やかな秋晴れの下、過去最高の人出を期待したいとスタッフ一同意気込んでいます。多彩なステージ、特選グルメにスポーツイベントと、ご満足いただけること請け合いです。ぜひ錦秋のひかりの都へ足をお運びください。



# 神経難病リハビリテーションセンター開設について

神経難病リハビリテーションセンター長 水田 英二

7月30日、京都大学 iPS 細胞研究所より「iPS 細胞由来ドパミン神経前駆細胞を用いたパーキンソン病治療に関する医師主導治験」が開始されること発表されました。この治験開始は多くの患者さんが待ち望んでいました。しかし、この治験が成功しても、実臨床としてパーキンソン病患者さんに届くには相当の時間がかかり、またこの治療によってパーキンソン病のすべての症状が解決されるものでもありません。パーキンソン病に対する薬物治療の比重が下がるとしても、リハビリテーションの必要性は変わりないと思います。いや、今後急速に患者数が増加すると推測されており、リハビリテーションの需要が伸びることは必須です。パーキンソン病以外の神経難病は根本的な治療法がない疾患が多く、療養手段としてリハビリテーションの比重はきわめて高いままです。「神経難病リハビリテーションセンター」開設後、少しずつですが療養相談が届いています。どのご相談も神経難病に関する情報が少なく今後の療養に困惑しておられることが見て取れます。このセンター開設が、私たちと神経難病患者さんとの「虹の架け橋」になり、神経難病リハビリテーションに関する知識・技術がどんどん広がっていくことを願っています。



## 誤嚥性肺炎について

- 食べ物や飲み物、唾液を飲み込むと食道から胃に送り込まれます。食べ物などが食道ではなく気管に入ってしまうことを「**誤嚥**」といいます。誤嚥した物に含まれた菌やウイルスが繁殖して炎症を起こすと「**誤嚥性肺炎**」になります。
- 気管へ入ろうとした物を出そうとする働きが「**咳をする**」=「**ムセ**」です。
- ムセのない誤嚥もあるため、「**ムセていないから安心**」ではありません。
- 飲み込みの力も体力と同じで年齢とともに衰えます。早い時期から飲み込む力を鍛えることが大切です。



### 誤嚥性肺炎になると――

- 37.5度以上の発熱
- 濃い痰がよく出る
- 喉がゴロゴロと鳴る
- うとうとしたり、会話が噛み合わなくなるなど普段と違う様子になる
- だるさが続くぐったりとしている
- 疲労感が消えずに食欲がわからない

などの症状が出ます。  
このような症状があればかかりつけの病院に受診してください。

### 飲み込みの力の低下のサイン

- よくムセる
- 口の中に食べ物が残る
- 食後ガラガラ声になる
- 痰がからまることが多い
- 食事時間が長くなった
- ろれつが回りにくい
- 口が乾燥する
- よだれが垂れる
- 痩せてきた

など

### 誤嚥性肺炎を予防するために

口の中を常に清潔に

食べる前に嚥下体操を

良い姿勢でよく噛んで食べる

ムセた時は強く咳をする

## 短時間通所リハビリテーション(介護保険)の紹介

当院では、個別訓練40分(理学・作業・言語聴覚療法)と集団訓練40分(園芸・音楽療法)を組み合わせた短時間通所リハビリテーションを行っています。個別訓練では、基本動作能力の回復や日常生活・社会生活への適応、コミュニケーション能力・嚥下機能の回復を支援しています。集団訓練では園芸・音楽を通して心身に働きかけ、他者と関わり楽しみながら自己の気づきや意欲の向上を図ります。

ご利用は、平日の午前中(1~2時間未満、週1~2回)で、①要介護1~5の方、②脳血管障害、運動器疾患、認知症疾患等の方、③ご家族の送迎またはご本人で来所できる方、①~③のすべてに該当する方となります。ご希望の方は担当ケアマネジャーを通して連絡を頂くと手続きがスムーズです。入院患者様は主治医の処方が必要ですので担当ソーシャルワーカーへご相談下さい。その他のご不明点は地域連携室までお問い合わせ下さい。



理学療法



作業療法



言語聴覚療法



園芸療法



音楽療法

## ふれあいリハフェスタ in 西播磨 2018

この催しは、センター利用者と地域の方々と  
のふれあいや交流を図るとともに、センター機能の体験を通して福祉や医療に対する理解を深めることを目的として毎年開催されます。

今年は、女子プロサッカー ASハリマアルビオンとの交流イベントをはじめ、様々なステージプログラム、飲食・特産品販売、お子様向け遊具コーナー、ふれあいスポーツ体験などを企画し、多世代の方に1日楽しんでいただけます。

10月20日(土)はぜひ西播磨総合リハビリテーションセンターにお越し下さい。

